

都留市小中学校適正規模等審議会の状況について

本年度最後の第6回審議会では、これまで出されてきたキーワード「逃げられない現実＋積み上げてきた意見」を短・中・長期ごとに整理し、その表を基に下記の「命題1・2」について絞り込んだ話し合いを行った。次年度には半数近い審議員の交代がある為、現任者で話し合える最後の審議会であること、このメンバーで骨組みとなる方向性を見定めておきたい旨を伝え討議に入った。※以下、枠外に明記したのは(〇〇委員)；のご意見とその理由

＜ 議 事 ＞

- 1) 『子どもたちにとって望ましい学習環境とは』に関する意見を一度整理し
短・中・長期を見通した適正な学級・学年・学校規模の方向性を絞り込む」

(1) 「命題1」 同学年の通常学級数は、

- A) クラス替えのない単式学級でも適正範囲とするか、
B) クラス替え可能な複数の学級が望ましいとするか、

※ A)B)どちらに決めるにしても、小・中学校ごとに方向性を決める

(2) 「命題2」 通常学級編制基準の本市標準の

- A) 上限は、25人前後が望ましい ※「前後」が意味するものの確認
B) 下限 ⇒ 決める ⇒ 人数を決める ⇒ 何人まで可とするか
⇒ 人数を決めない ⇒ 複数の班が作れる
⇒ 決めない ⇒ 最終的に0人になるまで存置し続ける
- ① 「複式学級基準（小学校は国；16名、県12名）」を下限とする
② 複式1つまでは可とするが、複式学級内合わせて()人を下限とする
③ 人数は決めず「単式学級内で複数の班が作れる人数」を下限とする
④ 「複複式学級」が発生したら統合を検討する
⑤ 下限基準は設けない

(K1委員)；命題2のB)下限⇒決める⇒人数を決めない⇒複数の班が作れる に賛成する。

(理由) 単に学力向上だけでなく、競争力や協力・協働の社会性も育てたい。

複数とは、2～3班のこと。私の時代だと5～6名×2～3班

(S委員)；同じくB)について参考意見・私が勤務するA小の学童では、1クラスに3人、4人、5人の状況。子どもの「逃げ場がない」ことに先生方はとても苦労してい

る。トラブルがあると暗い顔で学童へ。他の子もいきさつを知っているのでみんな暗くなる。クラス替え可能な複数学級が望ましいが、最低でも、違う班に移動可能にしてあげないと、登校そのものを渋る危険性大。

(U 委員) ; 以前「仕事が過酷なため教員志望者が減っている」と発言した根拠を訂正。

山梨県教採の倍率を調べると、今回 2.9 倍だった。今後イ) 3 倍未満になると優秀教員は激減する。ロ) 2 倍未満になると教員全体の質に問題が発生する。

ハ) 小は特に団塊世代の大量退職者があり、埋め切れない。ニ) 景気回復と人不足で条件の良い民間に持って行かれる。ホ) 小の免許は、小の先生になりたいと言って受験しないと取りにくい。ヘ) 小教員の 3 割が週 60 時間の過労死ライン越え勤務。10 年前より 10 h 増えている。ト) 今後、外国語教育、プログラミング教育、その他、と更に多忙化。チ) 1 日当たりの勤務時間で、副校長・教頭は 12 h を超えている。13~14 h も珍しくない。週 60 時間に、家に持ち帰りの時間外は含まれていない。

(N 委員) ; 人口推計は減少時期が早まりこそすれ、ズレはほぼ無い。よって、いずれ限界を超えるときが必ず来るので、打って出る視点で小中 1 校ずつに標準を合わせておき、例えば CCRC の空いている土地に学校を建てるといったプランを中長期的に立てておいたらどうか。漏れはいっぱいある案だが、市内全域スクールバス通学は可能だし、学校の長寿命化には苦し紛れが見える。教育水準を上げていくためにも、頭の隅に入れておきたい案かと考える。

(F 委員) ; 逃げられない現実を見る限り、将来的に統合やむなしと感じている。ある地域の老人から「複式にするなら統合にしてもらって結構」の声が心にひっかっている。複式になったときの子どもたちにはどんな思いがあるのか、複式のメリット、デメリットを知りたい。

(M1 委員) ; F 委員への回答。河口湖畔で複式を経験。主要教科は学年に応じて、そして、技能教科は一緒に学んだ。A・B 年度方式で、A 年度に 3 年で学ぶ図工を、B 年度 4 年で学ぶ図工を、という具合。メリットは、縦のつながりが強いので助け合う心が育った。但し、教師の指導には神業的技術が必要。

(T 委員) ; M 委員に補足。全校児童 24 人の学校例。小中連携が良い。運動会も音楽会もほぼ一緒。体育や音楽は全校でやった。一番大変だったのは教員の確保。県が配置しないので、村で探した。なかなか見つからなかった。

(M2 委員) ; A 小や F 小は、ここ 5~6 年のスパンで現実的危機が来ている。下限に関わるので、せこい考えだが、F 小に来るはずが、Y 小に行かせる家庭に行政指導はないのか。⇒今は事情が認められれば学区外通学を可とする旨を説明。

(Y 委員) ; 現場の先生が、例えば「逃げ場がない」とか、「神業」というように、「頑張れば

なんとかできる。」と言ってくれるが、保護者としては、「そんなに頑張らなくても実現できる方を選びたい。」「下限」については、現場の声として、「この人数だったら指導しやすい。」という客観的な意見を伺いたい。

(M1 委員)；人間関係がこじれた時を考えると、班が3～4つあるといい。最近男女比がアンバランスな学校が多く、小規模校だと女子だけ、男子だけのクラスもあるので、理想としては、2クラスあり、其々に4人班が2～3つあるといい。

(M3 委員)；中は、小とは違う。「下限はどれくらいがいい」かと先生方に投げかけてみた。生徒1人でも授業はできるが、主体性や社会性を考えると、参加型の授業が増えている。4人班は全員が話しやすく意見も言わざるを得ない。中でも4人班が定着している。4人×2～3班なら活動しやすい。

中で大事なものは、教科担任がきちんといること。今は、技能系の教員がおらず、専門外の免許外申請を出してぎりぎりで行っている。しかし、これが、主要5教科もないとなると大問題。

(T 委員)；「下限は何人？」とは一概に言えない。特別支援学級では1対1は当たり前。学力向上だけ考えると、CMにもあるように、「1対1対応で受験に備える！」がOK。

しかし、ドッジボールなどを考えると、チームに7～8人はいないと楽しめない。

(A 委員)；命題2については、①班別学習をさせたい ②協力・協働の精神と競争心を育てたい。 の2点に標準を定めたい。常に学校で1番と思っている子ども、他校に行ったらとても1番とは言えない、を経験させたい。先ほど、F小からY小へと学区外転学させている件については、「逃げ場」が無く、止む無く転校しているケースもあり、保護者の勤務地を理由にしているが、内情は違うということは珍しくない。多様な見方・捉え方をしてくれる友達や先生方を求めて、という場合もある。

(K2 委員)；この会に参加しとても勉強になっている。保育園では、複式に近い組み合わせになっている。異年齢で組むと下の子を面倒見てよい影響も多分にある。一概に複式はダメということはない。時代の流れなのか、小で身につければよいことを幼稚園や保育園で扱わないと入園してくれない保護者が多い。園の目玉商品として避けて通れない。小中と同じで保育士も人手不足。共通するのは、先生が元気でないと子育てはできない。先生方が今以上に病んでしまうとよい教育はできない。

(M4 委員)；命題1ではA) クラス替えのない単式学級でも適正範囲とするか、に賛成。命題2では、③ 人数は決めず「単式学級内で複数の班が作れる人数」を下限とする、に賛成する。(理由)「逃げ場」が必要だ。前回、財政については重きを置かな

くともよいと言われたが、今回は財政も大事になった。働き手激減だけを理由にせず、財政の使途についてもメスを入れたい。

(K1 委員)；命題 1 では B) 下限を決めるに賛成。(理由) 小中の義務教育学校を考えたとき、市内に 3 校くらいなら実現可能だから。

命題 2 については、Y 委員の意見のように、先生方の意見を尊重したい。財政力を考えたとき、目の前に「病院の建て替え」もある。とても厳しい。複式学級は先生方が頑張れば不可能ではないように話されているが、実際には 2～3 倍も大変なはず。「頑張れば」は避け、「頑張らなくとも」の方が現実的。

【議長】；ここまでをまとめます。「上限 25 人前後」は、ほぼ皆さん OK！ 「下限」は 4 人くらいの班が 2～3 つくらいあったら指導しやすいし、新学習指導要領で目指す学習も組める。但し、中は 9 教科 10 科目の半分を切ってしまうともう無理。いざれにしても、「下限」を明確にしない方が、状況状況で判断できる、ということで、① 先生方が授業で目指すものが実現しやすくなること、② 「逃げ場の問題」をクリアできること、できれば複数学級あった方がいいが、③ 地域の良さもつぶしたくないということ、④ 中長期的に考えることだが、小中一貫校なり、義務教育学校なりを念頭において、並行して考えていくこと等々

(S2 委員)；今日の資料はとてもよかった。市民の皆さんにも見てほしいくらい。判断基準を聞いている限り、40 年先まで考えたとき、配置がとか、クラス人数は、なんて言っていないときが現実に来ってくる。やはり、ベースにあるのは「人口減少」ここで、腹をくくって、増やすことへシフトすることが大事だと考える。座して待っていても、この推計通りになる。だからこそ、打って出ないと、都留市に人はいなくなる。市がもつかどうかにもかかっている大問題。

(K1 委員)；外から引っ張ってくる移住も大事にしたいが、借りている人を都留市に残す、出て行かせない対策も大事。他県にはそんな工夫例がたくさんあるので調べるとよい。後は、市民目線の様々な条件を緩めていただき、世界中では人口増加が激しいので、外国の方でも OK を地域で認めてもらえれば、人口を増やせる。

(S1 委員)；最初から先細りするような寂しい話ばかりしてきたが、都留市の将来をちょっと期待させる楽しい話が出始めた。うちの学童では、今まで地域の行事にも積極的に参加させてきた。夏休みには全校でパブリカを歌い、全校でも 29 名なので中・高生にも呼びかけたら 40 名にも増えた。その頃は、N 中でも学校行事が重なっていたが、学校長の理解と協力で地域のことならと早めに帰してくれた。こうしてみよう、ああしてみようと工夫をしていけば、自然任せで放っておくと変わらない流れに変化を生み出すことができる。

【議長】；マイナス面ばかり考えず、プラス面も対策に入れ、場合によっては、ダメになる前に腹をくくことも決断する必要あり。先行投資により流れを変える決断は、いつか必ず取らざるを得なくなる。統合とは片方が吸収され消えてしまうことではない。吸収される良さを新しい中に盛り込んでいくことを考えれば、統合とは、新しいものを作るということ。

(U委員)；Y委員の言葉は心に響いた。「先生方が頑張らなくてもできること」教育には終わりが無い。やりだしたら切りが無い。終わりが無いので、とことんまでやってくれている。でも、子どもたちと触れ合う時間はどうなっているだろうか。子どもたちと触れ合う時間で頑張ることより、それ以外のことに頑張らざるを得ないことの方が多いのではないか。

「誰のための、何のための、適正化か」に立ち返りたい。子どもたちの最もそばにいてくれるのが先生方。よって、先生方が、こうであってくれたら、を大事にしたい。怠けるといことではなく、先生方が子どもたちと一緒に遊んでいる、学んでいる、将来に夢描きながら楽しそうに語り合っている、そんな時間を大事にしたい。

(M2委員)；10年以内に厳しい状況下になることはわかっている。判断基準を「下限として決めておく」必要はあると思う。地域でこういう話をする、「陳情もしていこう」という考えを述べる人もいる。私の記憶では、私が小学生のときに、谷村第三小学校が文大附属小になった。附属小がなくなると、この名前もなくなるのか？それとも、他校がその名を名のるのか？（議長より、4年制教育大学として文大が存続するためには必ず附属小という名を残す旨を説明。加えて市立の附属小が全国に例を見ないことについても触れる）

(U委員)；この会議は秘密裏に進んでいる感あり。事務局の仕事を増やしてしまうことになるが、今日のプレゼンを、何らかの形で市民に発信できないか。危機感の共有でもあり、新たなアイデアも生まれるだろう。

(N委員)；次回から別の人が出るので本日が最後の出席となる。自分の考えをA4で4～5枚にまとめた。事務局に預けたい。

(K1委員)；U委員のプレゼン見える化に賛成する。統廃合は決してマイナスではない。小中一貫校なり義務教育学校なりに繋がれば、夢や希望の実現に向けて市を挙げて動き出せる。文大附属小・中・(高)・大学・大学院の実現に向けて楽しくなる。

2) 次回の予定について

第7回審議会

- ① 時期； 早ければ6月定例議会前、遅ければ7月（東京オリパラを避けて）
- ② 議題； 「適正な配置」と「他の選択肢（小中一貫校・義務教育学校等）」